

3年生 単元名「モチモチの木」

受容と共感で笑顔あふれる学校づくり
～ちがいを豊かさとして ともに言葉で学び続ける子の育成～

○研究テーマに迫るための日常の手立て（成果・課題）

【日常における手立て】

① 安心して話することができる環境づくり

相手の思いを受け止め、認め合える姿を目指している。「聞いてもらえる」という安心感が話す意欲につながると考える。そのために、話の聞き方「うめういす」を意識して指導している。額いたり、「いいね」というつぶやきをその都度取り上げ、価値づけることで、安心して話せる環境をつくっている。しかし、まだ教師に向かって話してしまうことがあるため、相手を見て話すことを意識した声かけを続けていく。



② 気軽に話し合える環境づくり

席を3人席にすることで、すぐに話し合いができるようにしている。どの教科でも3人ですぐに話せるよう子どもたちに投げかけている。両脇の子たちが真ん中に顔を寄せ合って話し合う姿が理想だが、3人での話し合いはまだ3年生には難しかった。まずは2人組での話し合いを中心に行っていく。

○本単元について（成果・課題）

【本単元における手立て】

自分なりの豆太像、ふり返りの視点

最初は登場人物に注目しようとした。だが、豆太一人に絞って追っていく方がより気持ちを想像しやすいと考え、自分の好きな豆太について紹介し合うことをゴールにした。豆太に目が行くように、単元のゴールを明確にし、ふり返りの視点を豆太に絞ることで、自分なりの豆太像を意識できるようにした。もともともっていたものが、時間によって引き起こされているため、「豆太がどう変わったのか」ではなく、「どう成長したか」に注目するとよかった。交流を通して意見が変わった子に対して、「どうして変わったか」を問い返すことで子どもたちの考えが広がる。

